

平成29年度 学校のあり方懇談会開催状況

1 開催日時

開催日時：平成30年1月25日（木）

開催場所：会津若松市教育委員会室

テーマ：学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

2 主な意見

- ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置するにあたり、どのようなメンバーとするかが課題だと思う。小規模校であれば、ほぼ顔見知りであるため選出しやすいと思うが、大規模等の場合は、人選に苦慮すると思う。
- ・学校長の立場では、導入しなくても良いのではないかと意見が多いように見受けられる。
- ・地域の方々のご協力をいただき、学校評議員の効果的な活用が図られ、円滑な学校運営が行われている。大規模校では、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入は難しいのではないかと感じている。
- ・学校評議員は、校長の求めに応じて意見を述べることができるとされ、合議体ではない。一方、学校運営協議会は、複数の構成員の熟議による合議によって意思決定する合議体である。そのため、どういう方々を人選するのか。どのような形が、地域の課題解決と学校のニーズに沿うのか。本制度が進展を見せない理由の一つであると考えます。
- ・地域の意見が学校現場と開きがある場合、混乱が生じる可能性がある。国において努力義務とされたが、学校導入に向けての課題は多いと感じる。導入した学校等においては、選出委員の意見で大きく左右されるため、委員選出が課題であるとされている。
- ・学校の課題は、地域全体で考える必要があるとの認識から、学校評議員制度が出来た。さらに、それが発展して、地域の課題は学校の課題であるとの考えから学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進が求められているものと感じている。
- ・地域住民が教育にかかわって欲しいとの意味が込められた制度なのかもしれない。会津若松市の現状に即して考える必要があると思う。
- ・学校評議員に学校長は、非常に気をつかわれる。合議体となれば、決を採るとか、まとめやすくなるとの考え方もある。どのような形式であれ、当事者意識を持って課題の解決に向け取り組んでいくかが大切である。
- ・単に、制度を導入すれば、学校運営が良くなるわけではない。
- ・もっと広い視点からの議論が必要となる。大きな視点から議論を行う必要がある。
- ・地域の課題を踏まえ、地域の未来を含め考えていく必要がある。単に制度によって組織化するだけでは意味が無いと感じている。